

2023年度第5回理事会議事録

一般社団法人 栃木県バスケットボール協会

1. 招集年月日 令和6年1月30日
2. 開催日時及び場所
 - (1) 開催日時 令和6年2月20日火曜日午後6時半
 - (2) 開催場所 文星芸大附属高校総合研修センター
3. 理事・監事数及び出席理事・監事数
 - (1) 理事数 28人、特任理事数 2人
 - (2) 出席理事数 20人(代理出席者1名)
出席特任理事数 2人
4. 出席理事の氏名
小曾戸和彦、片桐晃、齋田一郎、鈴木克美、直井秀幸、渡邊諭、渡邊整、下島健一、佐藤昭、阿久津宏一、増淵倫巳、大平幸造、小林幹央、大山賢史、益子基久、渡邊明美、山田将樹、菊地宜秀、齋藤宣子、佐藤圭一
5. 出席特任理事の氏名 高橋哲夫、日向野剛
6. 報告事項
 - (1) 活動報告
 - ①U12 第48回栃木県ミニバスケットボール大会について (U12阿久津部会長)
栃木県ミニバスケットボール地区選抜交流試合について
 - ②U15 ジュニアウィンターカップ大会結果について (山田理事)
 - ③U18 令和5年度全国高等学校バスケットボール選手権大会結果について
関東高等学校新人大会結果について (下島U18部会長)
 - ④社会人連盟 第6回全日本社会人バスケットボール選手権大会について (TBCが7位で全国大会出場) (菊地理事)
 - ⑤3x3 3x3 U12・U15栃木県大会について
3x3 宇都宮市長杯2024について (菊地理事)
 - ⑥指導者育成委員会 栃木県インテグリティ研修会について
午前の部U12保護者対象約200名参加
保護者や指導者からのアンケートの中に「どうして今までこのような研修会を開催していなかったのですか？ぜひ今後も開催してください。」「とても有意義な研修会でした。」等好意見が多くみられました。
講師のJBAコンプライアンス推進グループ向山氏(午前の保護者対象の講習会担当)JBA裁定委員会委員合田弁護士(午後の指導者対象の講師)からも
「栃木県はこんなに研修会に人が集まるのですね。栃木県の今後が楽しみです。」と好評を得ました。(益子理事)
 - ⑦BREX トップチームの現在(リーグにおいてアルバルクと首位争いをしている。
先日の天皇杯は惜しくも千葉に競り負けてしまった。)との報告
ここで、山田理事より、私事として、3月末で宇都宮ブレックスを退社し、SR渋谷に移籍すること。改めて栃木県の皆さんにお世話になったことなどが報告された(山田理事)

ここで、齋田副会長より質問

「宇都宮市長杯の要項の中に出場選手資格で小学校5年生以下、4月27日(土)・28日(日)に必ず出場できるものとあるがどういう意味か？」

菊地3x3委員長

「この大会が来年度のワールドツアーオープナーの際の開催されるジュニアカップの出場権を得るため、そうしている」

齋田副会長

「何チームくらい集まっているのか？」

菊池3x3委員長

「市長杯のほうは男子が15チーム、女子は10チーム」「栃木県大会についてはU12に関しては男子が16チーム、女子が9チーム。U15については男子が6チーム、女子が4チーム」

齋田副会長

「副賞がつまらないから集まらないんじゃないか？」

菊地委員長

「そういうことはないと思う」

「市長杯についてはクロススポーツマーケティング社と宇都宮市とのご協力で景品についてはかなり良いものが提供されている」

齋田副会長

「以前やった大会では優勝はマウンテンバイク、ナイキのバスケットボールシューズなどが提供されていて、それを目的にして参加したチームがあった。」

菊地委員長

「昨年の市長杯では、ナイキのバッグなど豪華賞品や、参加賞として3x3のTシャツなどが提供されていた。」

齋田副会長

「比江島のサイン入りTシャツなんか出したらいいんじゃないのか？」

菊地委員長

「私からは何とも言えません。ただ、市長杯の中でブレックスの選手との交流会を設けています。」

齋田副会長

「2月24日はブレックスの選手も来るんだね。」

菊地委員長

「はい。来ます。エグゼの選手が来ます。」

齋田副会長

「エグゼの選手が来るんだね。」

菊地委員長

「そうです。この日曜日に日本選手権で優勝たてメンバーが全員来ます。」

齋田副会長

「落合は来るの？」

菊地委員長

「落合は来ません。別のチームなので。」

齋田副会長

「わかりました。」

⑧協会関係（専務理事）

・来年度予算について

皆さんからご提出いただいた資料をもとに補正予算・来年度当初予算（案）を作成し、現在税理士さんのところでチェックしていただいている。3月26日の第6回理事会にてご審議いただきたい。

・今年度事業報告・来年度事業計画について

メールにて各カテゴリー・委員会に依頼をかけた。すでにご提出くださったところもあるが、随時作成して送ってほしい。

・新年会について

1月20日（土）ホテルニューイタヤにて開催された新年会の収支報告ができた。

7. 審議事項

第一号議案 役員候補者選考委員会からの答申について

8. 議長の氏名

小曾戸和彦（会長）

9. 議事経過の要領及びその結果

会長小曾戸和彦から、本日の理事会は定足数を満たしているため適法に成立する旨告げたのち、会長小曾戸和彦が議長となり審議に入った。

議長により、定款第30条第2項の規定により次の者を議事録署名人に選任したい旨を述べ、議場に諮ったところ全ての理事の一致をもって次の者が議事録署名人に選出された。

議事録署名人 渡邊 明美

同 佐藤 昭

第一号議案

直井理事（役員候補者選考委員会委員長）より説明。

「本日まで2回ほど選考委員会を開催してまいりましたが、今の段階で会長候補を絞り込むことができおりません。現時点で、小曾戸現会長のほか数名の方が候補に挙がっています。この話し合いの中でなかなかお一人に絞ることができない要因の一つに多くの委員の方から、次期会長さんが専務理事を含む新しい協会体制をどのようにお考えなのか？特に専務理事については現在の鈴木さんの継続を希望したい。との意見が出ているというのが挙げられます。副会長・専務理事・常務理事等の選任は会長の専権事項であるのは重々承知しています。これはあくまでも選考委員会からの希望ということです。今後それぞれの会長候補者の方からお考えをお聞かせいただきたく考えています。そこで、まず初めに現会長の小曾戸会長に、もちろんお答えいただける範囲で結構ですので、この理事会でお話しただけると助かりますが。」

小曾戸会長

「今のお話をお聞きして私から一言

私が会長継続を申し出たのは、もちろんある程度は現体制を維持していきたいと思っておりますが、一番考えたのがやはり専務理事、今、鈴木専務理事は本当に一生懸命やっただけでございますが、一応専務理事ともお話をしましたところ、現在専務理事は自分でも仕事を持っているということもあって、聞きましたところ今までに3回ほど倒れたことがある。もうこれ以上続けるのは苦しいんだと。」

専務理事

「いや、そんなことは言っていない」

会長

「私はそう専務理事から伺ったので、だったら変えてやらないとまた体調を崩したりしては大変だと思い、これはあくまでも私の考えであるが、専務理事交代してもらうことがいろいろな意味でいいのではないかと、本人のためにもそうだし、それが一番の大きな理由です。それ以外は原則今の体制を維持していきたいと考えています。と私は思っていました。ただ、今話を聞くと、私が専務理事を交代させることがおかしいような雰囲気を感じましたので、私が会長候補に立候補するのは撤回させてもらって、私も今限りで辞めさせていただくことにしたいと思います。あとは選考委員会のほうにお任せしますのでどなたにするのかは選考委員会決めてください。」

直井委員長

「ありがとうございます。あくまでも選考委員会としてはこれまで通り小曾戸会長と鈴木専務のお二人がタッグを組んで協会運営を行っていただくことが望ましいのだけれど、という意見が多数を占めていたので私のほうから述べさせていただいたもので、言い方が悪かったかもしれませんが、あくまでも専務理事等の人選は会長がお決めになることというのはわかっています。」

齋田副会長

「今、表現上専務を最優先事項にして、会長をそのあとにしているようにとらえた。普通は、まず会長を決め、それ以外は会長が任命をすることが多いのではないかと。選考委員会ですこまで踏み込んでやるのであれば俺も辞める。」

会長

「私が会長になった時も、まずは会長を決めてその後会長がそのほかの役員を任命したはずだ。それなので、今まで一生懸命専務理事がやってくれているのは誰もが評価するところだと思うが、先ほどお話ししたように一番に考えたのは、昼間協会の仕事をし、夜は自分の仕事をするとするのが大変ではないか。これまでも体調を壊したことが3度ほどあったということを知ったので、それをまた続けろということとはできない。と私は思ったので、私が会長になるのであれば私が責任を持って探しますが、鈴木専務にはこの後も協会のしるべきポジションで残ってもらう予定でいたが。」

「私はさておいて、規約上もまずは会長を決め、その後会長がその他の人事を決めてきたので私もそういうつもりで考えている。ならば、最優先で専務理事の健康を考えて最善の策は何かと考えたうえでそう考えた。それ以外のことは何もありません。」

高橋特任理事（役員選考委員）

「ちょっとよろしいですか。私も選考委員のメンバーとして選考委員会に出席させていただいています。その中で、今現在の県協会の活動自体、小曾戸会長さんがなられて国体を経て大きな大会も経て、かなり充実している。それと合わせて日本協会・Bリーグ・Wリーグ等さらには他県協会とのパイプ作りというのは非常によくなってきているという風に考えています。この4年間素晴らしい成果を収めてきたと感じています。いろいろな面でこの栃木県バスケットボール協会が外から高評価を得ているのではないかと感じている。これについては、今出てきたように専務理事の努力等が出てきたものだと、もちろん県協会の皆さんが積み上げてきたものだと思いますが、特に専務理事が体を壊すぐらいやってこられたものであると。そこで、今後のことを考えた時にも専務理事が変わった場合に、じゃあ誰がやるのか、今の専務理事と同じ仕事を新しい専務理事がはたしてできるのか、というのが大きな一つの問題ではないか。そこで、これまで積み上げてきたこのパイプを、この2年間あるいは4年間をかけてもっといい組織づくりにできないだろうか。そう考えたときに、現会長の小曾戸会長と鈴木専務理事が今までの協会運営を踏まえて、この組織を改革しながら、継続してやっていただければよいのではないかと。という風に考えたところです。それがこの栃木県協会にとって良いのではないかと考えました。そして、そのあいだに次期専務理事候補を育てていって、2年後あるいは4年後にバトンタッチするということが協会にとってはいいのではないかと考えているところです。その辺のところを現会長の小曾戸さんにお考えいただいて今後の組織づくりを含めて栃木県協会の発展のためにご尽力いただければという風に考えています。選考委員会の皆さんもその点を十分に考えながら大変失礼な言い方になってしまったかとは思いますが委員長からの中間答申とさせていただきます。」

齋田副会長

「今日の審議事項に役員選考委員からの答申とあるが、この内容だと審議する材料がないが。」

専務理事

「たしかに、中間答申では審議する内容がない。私のほうではこの理事会で会長候補が一本化されているというつもりでいたので今回は審議事項にしておいたが、中間答申になってしまった。」

齋田副会長

「選考委員会からの答申ということで聞いたが、会長を決めることが選考委員会の役割で

あって、そこに専務理事を抱き合わせで考えるというのにはありえないことだ。あくまでも会長を先に決め、それ以外のことはそのあとではないか。」

会長

「協会の規約上もそうなっているので、皆さんももう一度規約をよく読んでいただきたい。私も4年前に会長に決まった時に理事候補お一人お一人にお話をさせていただいて決めさせていただいたので今回もそうだと思っていました。選考委員会が会長だけではなく、専務理事まで踏み込んでくるというのであれば、選考に関する規定そのものを改正する必要があるのではないかと。本来の選考とは違って、今回は会長だけではなく専務理事もセットできているように感じるのびっくりした。いままでいろいろと考えながらやってきたが今回のことでやる気がなくなった。私以外でいい人を選んでやっていってください。付け加えるならば、私が就任した4年前には、理事等の年齢制限など規約にはなかったが、国体を控えてこの後皆さんに頑張ってもらうにはある程度若い方を登用するために年齢を考慮して理事になっていただいた経緯があります。その方たちに頑張ってもらって次の栃木県のバスケット界を背負っていただければと考えて配置しました。ですので、皆さんには引き続き栃木県協会のためのご尽力いただければと考えています。ただ、専務理事については、先ほどの理由でもし私が会長のなるのであれば変えたいと思っています。その代わり鈴木専務理事には副会長として協会を違った角度から見ていただきたいと思っています。次の専務理事候補者として私が考えている人はいましたが、その方にはほかの仕事を持たず協会の事務所に昼間詰めてもらおうと考えています。なので、例えば今仕事を持っている人でしたら、ちょうど年度が切り替わるこの4月以降、その人が専務理事になるのであれば今の仕事を辞めてもらって給料出すから頑張ってもらいたいという形にしたいと思っていました。そういう意味でもこの2月中（できればこの理事会）に選考委員会からの答申を出してもらいたいと鈴木専務理事には話してありました。そうすればその後本格的に専務理事候補を選び、その人には3月いっぱい仕事を辞めてもらおうという話をしなければならなくなる可能性もあるので、そういう意味でできるだけ早くしてほしいと伝えてありました。」

齋田副会長

「今回は中間答申なんだろう。」

専務理事

「そのようですね。」

齋田副会長

「であるならば、整理して答申を出してもらいましょう。」

会長

「ただ3月では遅いかなと。新たな人を探すときに3月末の理事会26日では遅いのではないかと思います。」

齋田副会長

「あくまでも役員候補者選考委員会は会長を決めるための委員会であるからそこを間違えないようにしてほしい。」

高橋委員

「委員会の委員という立場で言わせていただくと、例えば今ABCというお三方の候補者がいたとして、そこでその会長候補者さんの中から誰か一人を選べばよいといわれて預かったとしても、その会長さんがその後この協会組織をどういう方向にもっていきたいのかわからないとなかなか自分たちでは決めかねる。だから、それぞれの方にその意思をお聞きしたい、そしてそれを聞くことで会長を決定する判断としたいのです。それがわからない状況で、いろいろと憶測などがあつた中で決定するというのは非常に不安です。例えば、先ほど会長がおっしゃったように専務理事を交代させるというのであれば、今度はどなたがなるのか、もちろん会長がお決めになるのですから経験豊かな方で見識なども十分にそなわっている方だとは思いますが、先ほど言ったように今までの流れの中で果たしてできるのかというのが非常に心配です。ですから、我々としては判断をする基準が欲しいのでもし聞ければと思います。」

齋田副会長

「であるならば、今日の答申では、現在候補者に上がっている方からそれぞれ考えをお聞きしたい。というのを中間答申として出すべきだったのではないかと。手続き上は、それが先で、今回のそれはその順序が逆だったのではないかと。」

専務理事

「要するに、今回は小曾戸会長からのご意見・お考えをお聞きすることができたので、今後委員会のほうでその他の候補者の方々にヒアリングを実施していただいてそれをもとに会長候補者を決定していただきたいと思っています。さらに3月の理事会を待たずに候補者の答申が出せる状況になった場合には臨時の理事会を開催する可能性があるということをご理解ください。今回は、この話し合いをもとにいったん選考委員会に差し戻したいと思っています。」

以上で理事会を終了したので、午後7時30分に閉会した。

2024年2月20日(火)

議 長

氏 名 小曾 和彦

議事録署名人

氏 名 渡邊 明美

議事録署名人

氏 名 佐藤 昭